

EHS&S研究センター セミナー2013

安心・安全な社会の実現を目指して

開催日時 **10月10日(木) 13:30~16:30** 受付開始: 13:00~

入場無料 (事前登録制) 詳しくは裏面をご覧ください。参加には事前登録が必要です。

会場: UDXカンファレンス (秋葉原UDX 6F)
 主催: 株式会社NTTファシリティーズ総合研究所
 後援: 株式会社NTTファシリティーズ

お申し込み

入場無料 (事前登録制)

事前登録は、ホームページより受け付けております。お席には限りがございますので、お早めにお申し込みください。

<http://www.ntt-fsoken.co.jp/>

ファシリティーズ総研

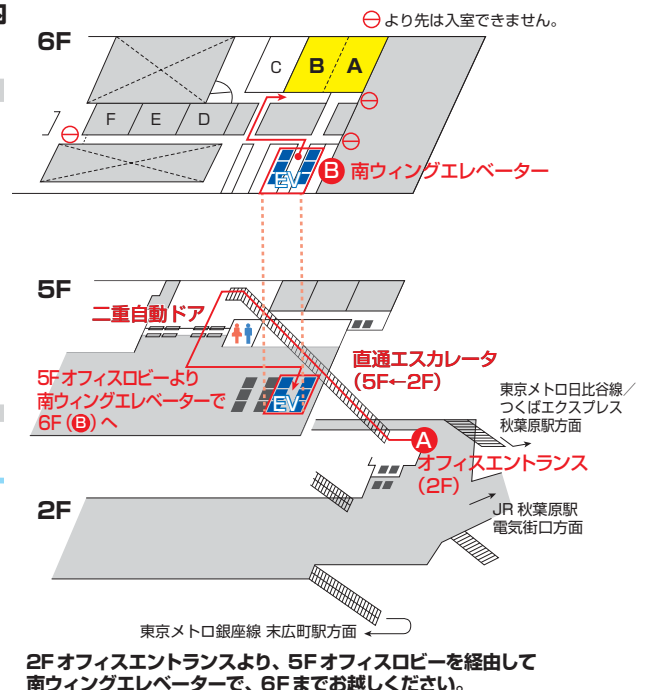
お問い合わせ先

EHS&S研究センター特別セミナー 事務局
 (NTTファシリティーズ総合研究所内)
 TEL: 03-5806-2118
 (受付時間 10:00 ~ 16:00)
 E-mail: info@ntt-fsoken.co.jp

会場 (秋葉原UDX 6F) へのご案内



- 東京メトロ銀座線 末広町駅 1番出口より 徒歩3分
- JR秋葉原駅 電気街口より 徒歩2分
- つばエクスプレス秋葉原駅 A1出口より 徒歩3分
- 東京メトロ日比谷線秋葉原駅 2番出口より 徒歩4分



拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より弊社に多大なご理解とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

株式会社NTTファシリティーズ総合研究所は、シンクタンク機能をもつEHS&S研究センターを組織し、ファシリティに関わるリスクマネジメントに主眼を置いたR&C (リサーチ&コンサルティング) に取り組んでいます。

本年も、R&Cを通して得られた知見を広く社会に情報発信するため「EHS&S研究センター セミナー 2013」を開催いたします。

ファシリティを取り巻く課題は、巨大化・多様化・複雑化の一途をたどり、経営戦略に直結する影響を及ぼしてきています。社会の持続的発展を視野に入れた、環境(E)・保全(H)・安全(S)・セキュリティ(S)に関わる総合的なリスクマネジメントが今こそ求められています。

この度のセミナーでは「安心・安全な社会の実現を目指して」を主テーマに、地球環境問題で先進的な取り組みをされている、独立行政法人国立環境研究所 気候変動リスク評価研究室長の江守正多氏をお招きし「IPCC第5次評価報告書および気候変動のリスク管理について」の基調講演をいただきます。あわせて弊社からは「太陽光発電システムと電磁妨害波規制・対策の動向」「巨大地震に対する備え」をテーマにご紹介いたします。

ご多忙中のこととは存じますが、ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

なお、参加料は無料ですが、事前登録制となっております。お手数をお掛けいたしますが、本状のお申し込み要領をご確認のうえ、お手続きのほどお願い申し上げます。

13:00 ● 受付開始

13:30 ● 主催者ご挨拶

13:40 ●



江守 正多 氏 独立行政法人国立環境研究所 気候変動リスク評価研究室長、学術博士

1997年に東京大学大学院総合文化研究科博士課程にて博士号(学術)を取得後、国立環境研究所に入所。「地球シミュレータ」の現場で研究を行うために2001年に地球フロンティア研究システムへ出向し、2004年に復職した後、温暖化リスク評価研究室長等を経て、2011年より気候変動リスク評価研究室長。

専門は地球温暖化の将来予測とリスク論。気候変動に関する政府間パネル第5次評価報告書主執筆者。著書に「地球温暖化の予測は『正しい』か? 一不確かな未来に科学が挑む」、共著書に「地球温暖化はどれくらい『怖い』か? 温暖化リスクの全体像を探る」、「温暖化論のホンネー『脅威論』と『懐疑論』を超えて」「気候大異変 地球シミュレータの警告」等がある。

【略歴】1970年神奈川県生まれ。東京大学教養学部卒業。同大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。1997年より国立環境研究所に勤務。2006年より国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室長、2011年より室名変更のため気候変動リスク評価研究室長。2013年より地球温暖化研究プログラム総括。

IPCC第5次評価報告書および 気候変動のリスク管理について

国連気候変動枠組条約における国際交渉においては、「産業化以前からの世界平均気温の上昇を2℃以内に収める観点から温室効果ガス排出量の大幅削減の必要性を認識する」こと(2℃目標)が合意されています。しかし、2℃目標を達成するために必要な温室効果ガス排出削減量と各国の温室効果ガス排出削減目標との間には隔たりがあり、2℃目標の達成に向けた削減の見通しは立っていません。このような状況の中、気候変動の対策目標の問題を不確実性下の意思決定の問題として改めて捉えなおし、「リスク管理」の視点から深く再検討する必要があると考えられます。本講演では、9月に新しく発表されるIPCCの第5次評価報告書に基づいた気候変動の最新の科学についてご紹介するとともに、この気候変動のリスク管理についての考察をお話します。

15:00 ● 休憩

15:10 ● 太陽光発電システムと 電磁妨害波規制・対策の動向

再生可能エネルギー固定価格買取制度が導入され、太陽光発電システムの工場・オフィスビル・住宅等への設置が進み、発電所としても構築されています。一方、太陽光発電システムを構成するパワーコンディショナ、監視・制御する情報通信機器等から発生する不要電波がAM放送や重要無線通信への混信等の原因になっています。ここでは太陽光発電システムの動向、電磁妨害波問題の規制状況や対策の方向性について解説します。



山根 宏
工学博士
EHS&S研究センター
上級研究員

15:50 ● 巨大地震に対する備え ～高知能制振システムが建物の揺れをコントロール～

東日本大震災では、震源から770kmも離れた大阪の超高層ビルの52階で2.7mの揺れ幅を記録しました。近い将来発生が予測される南海トラフ沿い巨大地震による超高層ビルの揺れはより大きなものになると懸念されています。この過大な揺れを、地震時に生じる建物の動きを反映して効果的に制御できる、高知能制振システムを紹介します。



齊藤 賢二
工学博士
EHS&S研究センター
上級研究員